

International Environmental Agreements under Heterogeneity

李, 倩

<https://hdl.handle.net/2324/4474924>

出版情報 : 九州大学, 2020, 博士 (経済学), 課程博士
バージョン :
権利関係 :

氏名	李 倩			
論文名	International Environmental Agreements under Heterogeneity (異質な国家間の国際環境協定)			
論文調査委員	主査	九州大学	教授	藤田 敏之
	副査	九州大学	教授	瀧本 太郎
	副査	九州大学	教授	浦川 邦夫

論文審査の結果の要旨

本論文の目的は、立場の異なる複数の国家間で締結される国際環境協定の制度設計を理論的に検討し、一定の知見を得ることである。

論文は5つの章からなり、1章では研究の背景と先行研究のレビュー、5章では結論が記述される。残りの章では、国家が協定への参加や汚染の削減量などに関する意思決定を行う多段階ゲームを用いた分析が行われる。

2章では、2つのタイプの国（先進国、新興国）が複数存在する状況で、資金援助の有効性を検証する。資金援助の形態として、協定加盟国同士で行われる内部援助と、協定外の先進国がサポーターとなって加盟国に資金を提供する外部援助を考える。国の選好の差異が大きいとき、内部・外部援助のどちらも有効であるが、外部援助がより効率的な均衡を導くことを示した。

3章では、国の選好に関する制約がない状況で、協定での削減量の決定基準として、利得最大化ではなく多数決にもとづく一律削減量方式、一律排出税率方式を提案し、それらの有効性を検証する。いずれの基準においても、安定な協定の加盟国数は高々2であり、他のルールとの併用が不可欠であることを示した。

4章では、2国間の協定における国内政治の影響を分析する。先進国、新興国間の協定で資金移転をとまなう交渉が行われる見込みがある場合、汚染が双方向的であるときに限り、戦略的委任によって各国の国民が投票で相対的に環境意識の低い代表者を選ぶ現象が確認された。

本論文は環境協定の分析において重要な要素である国の異質性に焦点をあて、先行研究を拡張したうえで現実の政策提言にも利用可能な成果をいくつか提示したという点で評価される。

以上の点から、本論文調査会は李倩氏から提出された論文“International Environmental Agreements under Heterogeneity”を博士（経済学）の学位を授与するに値するものと認める。